

10 年にわたる日本とインドネシアの舞台芸術交流の成果が結実

劇団 SCOT『リア王』 インドネシア公演

インドネシア人俳優がリア王役に挑む

国際交流基金（JF）は、2026 年 9 月、「次世代共創パートナーシップ—文化の WA2.0—」の一環として、演出家鈴木忠志氏が主宰する劇団 SCOT による『リア王』をインドネシアで上演します。

インドネシア人俳優らを主要キャストに迎えた国際共同制作として実施するほか、現地の次世代を担うアーティストを対象としたワークショップも併せて実施し、日本とインドネシア間の文化的相互理解を深めるとともに、両国の交流を牽引する次世代人材の育成を図ります。

本事業は JF がアジアセンター時代から支援してきた劇団 SCOT とインドネシアの文化団体ブミ・プルナティとの長年にわたる交流・協働の成果として実現するものです。

劇団 SCOT とブミ・プルナティは JF の支援のもと 2015 年から約 3 年をかけて、日本・インドネシア共同制作作品『ディオニュソス』を創作し、2018 年に日本とインドネシアで初演しました。

その後シンガポール国際芸術祭やシアター・オリンピックスなど国際的な舞台でも上演を重ねてきました。『ディオニュソス』では出演者 15 名のうち 13 名をインドネシア人俳優が占め、また、2021 年には共同制作の第 2 作として『エレクトラ』を創作。『ディオニュソス』と『エレクトラ』では主要な役どころの一部をインドネシア俳優が演じ、それぞれが出身地域の言語や文化的背景を生かして出演するなど、新たな国際共同制作の形として高い評価を得ました。

また、2015 年以降、ブミ・プルナティの芸術監督でプロデューサーのレスツ・クスマニングルム氏が選抜したインドネシア人俳優が継続的に利賀での SCOT サマー・シーズンやスズキ・トレーニング・メソッドの研修に参加し、日本の俳優とともに創作活動を重ねてきました。2023 年にジャカルタで実施した『ディオニュソス』公演では来場者の 99%以上が満足と回答するなど大きな反響を得ており、その成果を踏まえてレスツ氏から新たな国際共同制作の提案が寄せられ、今回の『リア王』公演の実現に至りました。



左：『リア王 4 か国語版』 右：リア王役のインドネシア俳優ジャマルディン・ラティフと、看護婦役 齊藤真紀（SCOT）
いずれも提供：SCOT

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

『リア王』は劇団 SCOT が 1984 年に初演し、シアター・オリンピクスをはじめ国内外で繰り返し上演してきた代表作です。今回の公演では、これまで継続的にスズキ・トレーニング・メソッドを学んできたインドネシア人俳優ジャマルディン・ラティフ氏がタイトルロールであるリア王役を務めます。SCOT 版『リア王』で長年同役を演じたドイツ人俳優ゲッツ・アルグス氏の逝去後、新たな世代を代表する俳優として抜擢されました。日本とインドネシアの俳優だけではなく、スズキ・トレーニング・メソッドを習得したアメリカ、ロシア、イタリア、韓国、チリの俳優が共演する国際版として、シェイクスピアの名作に新たな生命を吹き込みます。

本公演およびワークショップを通じて、インドネシアの観客や舞台芸術関係者に日・インドネシアのアーティストによる長年の国際共同制作の成果を広く紹介するとともに、今後の日 ASEAN 舞台芸術交流のさらなる発展につなげることを目指します。

記

事業名称：令和 8 年度文化の WA2.0 主催公演（インドネシア）劇団 SCOT『リア王』公演及びワークショップ
 主催：国際交流基金（JF）、プミ・プルナティ・インドネシア
 開催日程：2026 年 9 月 16 日（水）、17 日（木）（現地時間）
 ※ワークショップは 17 日（木）のみ
 会場：ジャカルタ芸術劇場（GEDUNG KESENIAN JAKARTA）
 制作：劇団 SCOT、プミ・プルナティ・インドネシア

【鈴木忠志 プロフィール】



演出家、劇団 SCOT 主宰、（公財）利賀文化会議理事長。

1966 年、劇団 SCOT（Suzuki Company of Toga）を創立。1976 年、富山県利賀村（現・南砺市）に劇団の本拠地を移し、1982 年より世界演劇祭「利賀フェスティバル」を開催。世界各地での上演活動や共同作業など国際的に活躍するとともに、俳優訓練法スズキ・トレーニング・メソッドはモスクワ芸術座やニューヨークのジュリアード音楽院、中国国立中央戯劇学院など世界各国の劇団や学校で学ばれている。シアター・オリンピクス国際委員。日中韓共同事業 BeSeTo 演劇祭の創設者。主な演出作品に、『ディオニュソス』、『リア王』、『世界の果てからこんにちは I・II・III』。著書に『演劇とは何か』（岩波書店）、『Culture is the Body』（TCG・全米演劇人協議会）など。

<https://www.scot-suzukicompany.com/>

【レスツ・クスマニングルム プロフィール】



1965 年生まれ。プロデューサー、芸術監督であり、バリ舞踊ダンサーでもある。主要なライフワークであるダンス上演と景観設計の分野で、インドネシアと海外で幅広く活躍している。1999 年には、設立者の一人として国際的な非営利文化財団「バリ・プルナティ芸術センター」を創設。プロデューサーとしては、ロバート・ウィルソンがインドネシアの神話的叙事詩を演出舞台化した『イ・ラ・ガリゴ』や、鈴木忠志演出による日本・インドネシア共同制作の『ディオニュソス』、『エレクトラ』をプロデュースしている。

2014 年にはイタリアとインドネシアの文化・社会交流の促進に貢献したとして、イタリア政府から「イタリアの星勲章」を、2019 年にはジャカルタにおける創造者、先駆者、革新者として

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

の役割に対してインドネシア教育文化省から「文化賞」を授与されている。

<https://www.balipurnati.com> <https://www.bumipurnati.com>

国際交流基金（JF）について

国際交流基金は「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ。」をミッションに、「文化芸術交流」「日本語教育」「日本研究・国際対話」を通じて、世界各地との人的交流を促進し、相互理解と信頼関係の構築を通じて、より豊かな国際社会の実現を目指す独立行政法人です。

JF では 2024 年から 10 年間にわたって ASEAN を中心とするアジア諸国と、互いの価値を認め合う、包括的な人的交流プロジェクト「次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－」を展開しています。

日本語パートナーズ事業と、双方向の知的・文化交流事業を軸に、心と心のふれあいを通じて、多層的な人的ネットワークの強化や、対象地域と日本との将来にわたる強い信頼関係の構築を目指します。

本事業は「次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－」の一環として実施されます。

◆日本語パートナーズ事業

アジアの中学・高校などで日本語を教える教師やその生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介をする人を派遣しています。

◆双方向の知的・文化交流事業

相互理解の上に成り立つコラボレーションの機会を創出することで、人と人の強い絆を培い、世界の架け橋となる次世代人材を育てます。

「次世代共創パートナーシップ－文化の WA2.0－」公式サイト (<https://asiawa.jpf.go.jp/>) では、これまでの取り組みを記事や動画で掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（担当：熊倉、福島）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp